

瓦谷山



瓦谷山だより

発行日 2022年6月15日
発行人 (宗) 真光寺
岡本和幸
印刷 現代社
編集 (宗) 真光寺

問い合わせ先
(宗) 真光寺
TEL 0438-75-7414

◎お寺HP
<http://www.shinko-ji.jp/>
◎上総自然学校HP
<http://www.shinko-ji.jp/satoyama/>
◎お寺ブログ【瓦谷山だより】
<http://shinkoji.cocolog-nifty.com/news/>

vol.50

まもなくお盆を迎えます。真光寺では第四期墓苑の造成工事が続いています。第一期樹木葬墓苑西側に植えていた常緑樹を第四期墓苑西側に移植し、墓苑全体が広く見渡せるようになりました。新しい駐車場も完成し、これまでもより二十台ほど多くの駐車が可能になっています。今後も引き続き新墓苑全体に植樹を行い、年内には完成する予定です。

先日、シャンティ国際ボランティア会ミャンマー事務所の図書館員の女性の面ざしに、ふと「クメールの微笑み」を思い出しました。「クメールの微笑み」とは、カンボジアのシュムリアップ郡にある世界遺産アンコール遺跡の中にあるバイヨン寺院の石塔の四方に刻まれた巨大な人面彫像の通称です。アンコール遺跡を形成する多数の遺跡の中でも、アンコールトムは一辺が三キロの正方形の城壁に囲まれた巨大な城郭遺跡です。その一角に位置するバイヨン寺院では、クメール王朝の文化を伝える多くの貴重な石彫を見ることが出来ます。バイヨン寺院は大乗仏教の寺院だったと考えられています。ヒンドゥー教の影響もうかがえることから、「クメールの微笑み」は観音菩薩のものとも、またヒンドゥー教の神のものとも言われています。

口元を微妙に上げた微笑みを、アルカイックスマイルというそうです。古代ギリシャ美術の黎明期に造られた彫像に見られる特徴で、直訳すれば「古代の微笑み」ということになるのでしうけれども、赤ちゃんの無垢な微笑みをいうこともあります。日本においては国宝彫刻第一号の広隆寺弥勒菩薩半跏思惟像をはじめとする飛鳥白鳳時代の仏像がたたえる微笑みも、しばしばアルカイックスマイルと表現されます。

仏像はお釈迦様の入滅からおよそ五百年を経て、ガンダーラやマトゥーラなど、インド亜大陸の西の地方で生まれました。東西文明の十字路であるガンダーラでギリシャの彫刻と出会ったときに、アルカイックスマイルが仏像の表情として採り入れられたのではないかと思われます。その後仏陀の教えとともに中国をはじめアジア各地へと伝播していく過程で、仏像は現地の人々の顔立ちや美意識を反映した姿へと変貌し、またそれを拝む人々の表情にも仏陀の微笑みが刻み込まれていったのでしよう。ミャンマー事務所の女性の微笑みに、仏教徒がたどってきた信仰の営みの片鱗を見たような気がし

寺院の主は住職ではなく、ご本尊様です。ご本尊様の住まいであるお寺に住まわせていただき、ご本尊様にお給仕し、仏となられた檀信徒の方々のご先祖様のお世話をしながら自分自身の仏心を養い成長させていくのが住職たる者のつとめであり、また重要な役割でもあります。

当山のご本尊のお釈迦様は、およそ三百年前からこの地で私どもを見守って下さっています。山上の新伽藍への移転に伴い、旧本堂から書院へとお移りいただきました。仮本堂としてお盆やお彼岸などを行っていたとはいえ、日ごろ静かな書院におられるときは、なんとなく寂しそうなお顔に感じられましたが、本来のお住まいであるお寺の中心、仏殿にご安置してからのというもの、お参りの皆様がお線香の煙の向こうのお釈迦様もどこか嬉しげに見えるのは住職の欲目でしょうか。

木や金属や石の彫刻にしか過ぎない仏像を仏ととらえるか否かは自分の心次第です。自分自身の心のありようで、物事のとらえ方も変化します。その道理をよく理解しておくことは、意外と大切なのではないかと思います。お釈迦様は、誰もがよく智慧を用い、慈悲の心で穏やかに生きてほしいという願いのもと、法を説かれました。そのお姿を刻んだからこそ、お釈迦様のお像は微笑みをたたえ佇んでいるのです。

同じ言葉を投げかけられても、悪口と取るか忠告と取るか、あるいは励ましととるか、人それぞれです。どう受け止めるかによって歩む道も変わっていきます。心とは過去の記憶の蓄積であり、誰しもそれを頼りに正否を判断し、未来に向かって歩んでいます。それはその時どきの状態で常に化する不安定な指標です。自分は微笑んで生きているか、まわりの方々を私を微笑んで見てくれるか。私自身の生きざまを顧みるとき、このことは大いに参考になるのではないかと思います。

真光寺にお参りの際には、お寺の中心である仏殿にお参りし、ご本尊様に心をこめてお線香をあげてください。それから頭を上げ、仏様は微笑んでくれているかどうか、そのお顔に自らの心を映し出してみましょう。

お盆の季節がやってまいります。ご本尊様と共に山内一同、皆様の御参詣をお待ちしております。

真光寺住職 岡本和幸
合掌

行事報告

◇春彼岸会

お彼岸のお中日にあたる三月二十一日、午前に縁の会彼岸会、午後に山門彼岸会を厳修いたしました。
お彼岸やお盆の法要は、コロナ禍になってから会場を薬師堂と食堂の二つに分けてリモート配信をする等、感染予防をして開催しております。
縁の会彼岸会では約四十名の方がご参列になり、ご供養を執り行いました。



戒名を読み込みご供養しました



全員での読経



焼香の様子



食堂で法要に参加する皆さん

◇七日法要（四月）・植樹祭

境内の桜も見頃を迎え、春日和となった四月七日。午前の授戒式では、十四名の方が戒名を授り、続く月例供養にて四月に亡くなられた会員の皆様をご供養いたしました。
午後には毎年恒例の植樹祭。墓苑に移動し、始めに苗木の植え方を解説。その後、用意したマユミ、ウツギ、クロモジ、ヤマボウシ、ヤマブキなど十八種の低木類の中から各自好きなものを選び、ご自身の区画などに植えました。
参加者も多く、とても賑やかな植樹祭となりました。



境内の桜が満開



仏弟子の証である血脈を授与



法話をする住職

令和四年 年回表

百	五	三	三	二	十	七	三	一
回	十	十	十	十	七	三	回	周
忌	回	回	回	回	回	回	忌	忌
大	昭	昭	平	平	平	平	令	令
正	和	和	成	成	成	成	和	和
十	四	六	二	十	十	十	二	三
二	十	十	年	年	年	年	年	年
年	八	一	年	年	年	年	年	年



苗木が定着するようにしっかり植えました



お釈迦様の降誕(4月8日)を祝い誕生仏に甘茶を注ぎます



苗木を選ぶ様子

住職 岡本和幸

森の手入れを進めるにつれ、真光寺の山は気持ちのよい空間へと少しずつ変わっていきました。すると頭をもたげてきたのが、「ここを散歩道として整備してゆつたりとした時間を過ごせたら気持ちがいいだろうな」という思いです。あじさいロードを作ろうと思ったのは、里山の禅センターとして、心癒される時間と空間を提供したいと考えたからです。

今の伽藍がある山のふもとにあった旧本堂をご存じの方は、本堂の柱に掛けられた豪快な筆使いの門標をご記憶かもしれません。表には「穆照禪ぼくしょうぜん筵」という揮毫、裏には「昭和四十五年 覚道」と記してあります。これは駒澤大学仏教学部教授であった横井覚道先生の筆によるもので、ネットで検索すると、横井先生は「穆照覚道」と名乗っておられたようです。衛生兵として参戦され、戦後に禅匠岸沢惟安老師を訪ねて出家し、その後駒澤大学の苦学生を経て教授になったという異色の経歴をお持ちで、頭を剃り、法服を着て授業を行う僧侶でもあり、教授でもある方だったそうです。

昭和四十五年頃、当時の住職であった石井是参師は、晩年喉頭がんを患い住職を続けられなくなつて千葉市に転居されました。石井師の後、ご縁により真光寺を譲り受けられることとなったのが横井先生であったようです。禅匠として知られた岸沢惟安老師の孫弟子であり、経典を英語に翻訳された本を出版されていたことから、横井先生は真光寺を海外にある禅センターのように、自給自足しながら心ある者が集まり修行する道場にしていきたいという夢をお持ちだったのでない



真光寺旧本堂の中

かと推察しています。実際に私が真光寺に入山した折、坐禅に使用する坐蒲がたくさん残されていたので、当時の大学生などが集まり、横井先生のご指導の下で坐禅修行を行っていたのでしよう。

横井先生がご自分の号として名乗っておられた「穆照」は、美しい稲穂が日に照らされ揺らぐさまを意味します。「穆照禪筵」という語には、周囲に田んぼと畑が広がる真光寺を坐禅修行の道場として広く公界に開こうという、ご自身の仏道修行への決意が込められているのではないかと思います。

昔のことで詳細はよくわかりませんが、横井先生は昭和五十年三月一日に五十二歳の若さでご遷

化されました。その後真光寺は横井先生と同じく法系（師匠、弟子の関係）では岸沢惟安老師の孫弟子にあたる谷本順應老師に託されることとなります。真光寺の先代住職である谷本老師は、すでに川崎にお守りするお寺があったので、川崎からフェリーで木更津に渡り、そこからはお檀家様に迎えに来てもらって真光寺に通われ、随分ご苦労もあつたようになっています。

昨年の暮れ、観音堂に新しい観音様をお迎えした折に、谷本老師が横井先生の御親戚を伴って来山されました。いろいろなお話をうかがって、先生がご存命ならば真光寺はどんな形になっていただろうと、しみじみ思いを馳せました。

前号に記載したように、私は曹洞宗教化研修所の第三十一期生です。谷本老師は九期生、ちなみに副住職の國生徹雄も五十八期生として在籍しておりました。谷本老師は還暦を迎えるにあたり、ご自分が学ばれた教化研修所の志ある後輩に真光寺住持の職を譲りたいというご希望をお持ちでした。そして大学の講師や教化研修所主事を長く務めておられた十期生の中野東禅先生に相談されたところ、私をご推挙くださったというわけです。中野先生は私たち夫婦の仲人でもありました。

父が亡くなり、「万松会」の看板が早々に下ろされるのを目の当たりにしたという幼い日の体験を前号に書きましたが、それゆえ私には、先人が掲げたものを安直に下ろしてしまうことへの強い抵抗感がありました。次の世代にバトンを渡しながら法を伝えていく重要性を説く禅の立場から、先人の思いを洞察し、それが正しいのならばできる限り引き継いでいきたいという気持ちを持っていたので、「穆照禪筵」を大切に守り、その夢をなんとか引き継いでいければと考え、入山当初か

ら一泊坐禅会などを行って来ました。私のその思
いは横井先生や当時の方々の思いと同じものな
か否か、今では知るよすががありませんが、里山
の禅センターの構想は、真光寺の本堂で「穆照
禅」の門標に出合ったときから始まり、その思い
がやがてアジサイロードへと繋がっていきます。
昨年にはようやく坐禅堂が完成し、しまってお
いた「穆照禅」の門標をリニューアルして再び
掲げることができました。この道場に心ある者が
集って坐禅修行を行い、自分自身の心と向き合う
時間を作っていけるよう、活動してまいりたいと
考えています。毎月第二、第四土曜日に坐禅会を
開催しています。また毎月七日法要後の午後には
坐禅の時間を設けています。皆様ぜひご参加下さ
い。



坐禅堂入り口に掛けられた「穆照禅」の門標

樹木葬墓苑「森の苑」第四期エリアまもなく全区画開苑します。

第四期エリアの主要な舗装工事は終了し、あとは墓地の区画割と植樹、役所への申請を残すばかりとなりました。舗装が完成したことで、第1期～第4期までの周遊ルートが完成しました。全体をお散歩していただける他、足元がご心配な方にはゴルフカートにてご案内することができるようになります。

樹木葬の主役である高木は、花木を中心に植樹を行う計画です。第四期は平坦なので、時間が経って木々が成長すると、林間に谷向こうの山が透けるような風景になっていくはずですが、エリアの中央部分は、ゆくゆくは木々に守られるような雰囲気になります。

長い年月、100年、200年と経過すれば、他のエリアも含め荘厳な森へと成長していく場所です。

平坦な地形に荘厳な人工林といえば明治神宮の森が有名ですね。規模や樹種、森の作り方が異なりますが、木の大きさは最終的には明治神宮と同じようになっていくでしょう。



今回も移植工事は住職担当です。



カートをご希望の方はあらかじめお電話ください。



明治神宮の森

真光寺樹木葬墓苑の最終期

第四期エリアは「森の苑」の最終期となる予定です。

現在、第四期以降の新たな計画はありません。ご家族、ご親戚で森の苑をご検討の方がいらっしゃいましたらその旨、お知らせください。第四期が全区画完成し、募集開始が決まりましたら、あらためて会員の皆さまにはご案内をいたします。

黒潮の道―房総と熊野― (2)

今回は、「熊野信仰」について紹介し、紀州・熊野と房総の関係の深さを探ります。

■熊野の地

熊野の地は、古代の熊野国が大化の改新後に紀伊国牟婁郡となった一帯を指します。その郡域は現在の和歌山県域では田辺市・新宮市・西牟婁郡・東牟婁郡、三重県域では尾鷲市・熊野市・北牟婁郡・南牟婁郡に及びます。

熊野が地名として最初に現れるのは『日本書紀』。伊弉冉尊が熊野の有馬村(三重県熊野市有馬の花の窟)に葬られたという記述があります。花の窟は熊野灘に面した巨岩(磐座)御神体)の麓にある窟のことで、原始的な巨岩信仰の姿をとどめています。また、少彦名命が熊野の御崎に向いて行って、そこから常世郷に渡ったという話、御毛沼命(神武天皇の兄にあたる)が神武東征に従軍して熊野に至った時に、波の穂を踏んで常世国に渡ったという話もあります。熊野は海の彼方の他界や死後の世界と繋がっていたのです。

■熊野信仰

奥深い山々に鬱蒼として生い茂る樹々、厳然として存在する巨岩・奇岩、川・温泉・滝など、そこにある神々しい自然を畏れ敬う信仰をもとに展開したのが、熊野の地の諸神仏に対する信仰です。

現在では熊野本宮大社、熊野速玉大社、熊野那智大社を熊野三山と総称しますが、元々は熊野川を二神体とする信仰(本宮)、神倉山のゴトビキ岩(ゴトビキとはガマガエルをさす方言)を二神体とする信仰(速玉)新宮)、那智の滝を二神体とする信仰(那智)という、

ルーツが異なる個別独立した自然神信仰でした。そこに神道による祖先神信仰が入ってきて、本宮の神にスサノヲ命、速玉(新宮)の神にイザナギ命、那智の神にイザナミ命が割り当てられました。また、熊野では、自然神信仰と仏教(密教)が一つになった修験道が生まれました。修験者達は熊野の山奥に分け入り、那智の滝などの自然神の前で修行しました。そのような修験者によって熊野の霊験が高められ、世に広まってきました。

■末法の世

奈良時代も後半になると、それまでの公地公民制に基づく租税の徴収体制は崩壊の道をたどり始めます。その後は私有地(荘園)の増加、東北地方への軍事侵攻などによる財政難に加え、朝廷内での権力抗争や土地をめぐる争いもまた絶えず、不安定な世の中が続きます。そのような時代にあつて、より人心を不安にさせたものがありました。末法思想の広がります。末法思想とは、時の経過とともに釈迦の教えが衰滅していくとする仏教の予言的な歴史観で、釈迦の教えが及ばなくなった末法には、仏法が正しく行われなくなるために世の中が乱れるとされました。その末法元年が我が国では永承7年(1052)に当たるとされています。

また同じ頃、本地である仏が日本の神となつてあらわれ、人々の救済にあたりとするとする本地垂迹の考え方が熊野を中心に広まりました。熊野大権現などとよばれ

	熊野三山	熊野本宮大社 (本宮)	熊野速玉大社 (新宮)	熊野那智大社 (那智)
自然神の依り代		熊野川	ゴトビキ岩	那智大滝
神道の神		スサノオ	イザナギ	イザナミ
垂迹神		熊野家都御子神	熊野速玉男神	熊野牟須美神
本地仏		阿弥陀如来	薬師如来	千手観音
浄土		西方極楽浄土	東方浄瑠璃浄土	南方補陀落浄土

表1 熊野三山の諸神仏と浄土

るのは、それぞれの本地仏が権現(仮の姿)で垂迹神となつているためです。(表1参照)また、浄土信仰が盛んになったのもこの頃です。平安時代の浄土信仰は、自らが阿弥陀如来のいる極楽浄土への往生を願うものでした。藤原頼通によって、極楽浄土の再現を目指した平等院鳳凰堂が建立されたのが永承7年、まさに末法が到来した年でした。上皇や貴族が盛んに熊野に詣でたのはこうした時代背景がありました。源平の争いの時代を生きた後白河上皇「現在放送されているNHK大河ドラマ「鎌倉殿の13人」で、西田敏行さんが演じている人物」は、上皇在位35年間で34回もの熊野参詣を行ったといえます。熊野へ詣でる旅そのものが苦行として滅罪に繋がりが、極楽浄土につながるものと信じられ、上皇や貴族たちは競って熊野へ詣でたのです。

■補陀落渡海

私の故郷、現在の和歌山県東牟婁郡串本町田並には、特別な葬送儀礼の場となつている念仏島というのがあります。葬式(埋葬)がすむと、身内の人たちは、古い笠(帽子)と草履と杖、それに握り飯をわらづとに包んで持ってそこに行き、小石を拾って島の上に放り投げて、念仏を唱えるのです。この儀礼は死者をあの世へ送るものなのです。

浄土信仰が盛んになった平安時代以降、熊野の那智



念仏島と死者の携行品 (撮影: 森澤誠)

の浜では、南海の彼方にあるという観音の浄土(補陀落浄土)を、指して小舟に乗り込み、捨身の渡海をする修行者たちが現れました。これを補陀落渡海といえます。平安前期の貞観10年(868)の慶龍上人から江戸中期の享保7年(1722)

の宥照上人まで25人との記録が残ります。熊野の地は、浄土信仰によってもやはり、西方極楽浄土、南方補陀落浄土への入口だと考えられていたのです。海の彼方に死者の靈魂を送ろうとする念仏島の葬送儀礼は、今に受け継がれる熊野信仰の一つの姿なのだろうと思えるのです。

■房総の熊野信仰

平安時代末期になると、熊野三山の荘園は全国展開をみせます。黒潮の道で結ばれた太平洋側の各地には多くの熊野神社が分布しています。(図1)この頃、房総でも古代の郡を分割するなどして多くの荘園が成立していきませんが、『吾妻鏡』などの複数の資料から、下総国の匝瑳郡南条(匝瑳市)が熊野領であったこと、上総国畔蒜庄(袖ヶ浦市・木更津市・君津市)が熊野別当の知行地であったこと、熊野速玉大社(新宮)の造営に際して遠江国と安房国が造営料国であったこと、安房国郡房庄は、永暦年間(1160〜61)に、後白河上皇によって都に勧請された新熊野神社の灯油料として寄進されたことがわかっています。

また、鎌倉時代の永仁3年(1295)頃には、上総国畔蒜庄の年貢が、海路で新宮まで運ばれていたこともわかっています。高滝(市原市)の地頭が熊野に年詣でをする際に、六浦(横浜市の六浦)で「便船」を待ったという記事も『沙石集』にありますので、一定の航

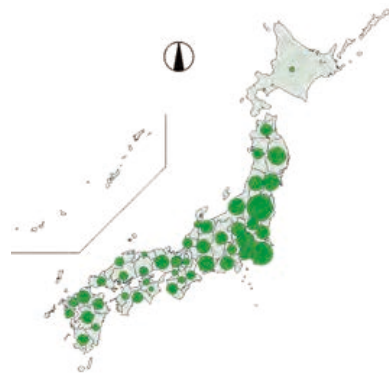


図1 都道府県別熊野神社分布図
[熊野三山協議会 HP より]

路や定期便があり、交通・交易が盛んであったのでしよう。現在、千葉県内の熊野神社の数は340を

超えると集計されています。その分布をみると、かつての熊野社領や主要な河口・港湾といった紀州の海民が来訪・移住した地域に限らず、奥深い山間部や河川の上流域にも多く分布しているのです。修験の地となっていた清澄山や鹿野山、鋸山などにおける修験者の関与があったように思えます。また、熊野の地に擬えて、熊野三山をセットで勧請している地域も見られ、実際に熊野詣が叶わない人々の願いを感じ取ることもできます。袖ヶ浦の周辺では畔蒜庄の範囲である小櫃川の中流域、小櫃川の支流の松川流域に多く分布していて、それらの熊野神社がある地域には、熊野の地にルーツを持つとされる鈴木姓が多く見られます。

■熊野比丘尼

朝野の多くが苦難の旅を経ながらも、浄土への入り口ともなった熊野に來世の救いや現世の利益を求めました。中世には武士や民衆にも広まり、「蟻の熊野詣」と称されたほど参詣者が絶えなかつたといえます。このように熊野が厚い信仰を集めたのは、熊野の神秘性や温泉など、今でいう観光資源を売りにして、全国的に布教や経済活動を展開した先達・御師・熊野比丘尼などがいたからです。特に熊野比丘尼とよばれた女性たちは、『観心十界曼荼羅図』『那智参詣曼荼羅図』や『熊野本地絵巻』を携え、絵解きを行いながら諸国を巡り、三山の護符「牛玉宝印」も広めました。

■率土神社縁起

袖ヶ浦市内の熊野神社の分布をみると、その北西側の半分(海岸より)に熊野神社がないことに気づきます。率土神社は、市内神納の鎮守です。祭神は埴安姫命。そこには、市内では熊野神社の空白地帯ですが、中世の熊野信仰の広がりを感じさせてくれる縁起、『率土神社縁起』が残されています。紙幅の都合で詳細は記せませんが、天竺摩伽陀国の盤古帝(スサノオの産霊)の妃であった天豊媛命(埴安姫命)が、帝とともに日



本に来て、やがて王妃は上総国望陀郡の神納の地で生涯を終えて、埴安姫命として祀られたというもので、周辺では類を見ない縁起です。

熊野比丘尼が絵解きに用いた『熊野の本地』とは、室町時代の御伽草子のこと。天竺の善財王の王妃五衰殿の女御が王や王子とともに日本へ渡り、彼らが熊野権現となるというものです。『率土神社縁起』は『熊野の本地』をもとにしてつくられたの

だろうと思います。率土神社がある神納の寺院は合併して、今は神応寺だけになっていますが、かつては、光曜寺(本尊:薬師如来)、神蔵寺(本尊:阿弥陀如来、観音堂併設、西望陀観音三十三札所の第5番)、応善寺(本尊:地藏菩薩、西望陀観音三十三札所の第6番)の3つの寺があつて、阿弥陀如来・薬師如来・観音菩薩が配されていました。地域史研究の先覚、多田憲美さんが著した『ふるさと神納』を読み直すことで、また教わることができました。空白地帯にも熊野の痕跡が残されているのです。このような例は他所でもありそうですから、また機会を見て紹介できればと思っています。

最後に手前味噌ではありますが、袖ヶ浦市郷土博物館が開館25周年を記念して2007年に開催した特別展『房総と熊野』は、紀州、房総両地域の研究者にとどまらず、多くの方の関心をよびました。その図録は、当館の学芸員である桐村久美子さんの労作で、内容も優れています。まだ、在庫もありますので興味のある方は、ご一読ください。

上総自然学校（里山再生活動）

真光寺産、里山のお米
ご予約受け付け始めます。

今年も真光寺の田んぼの米作りが始まっており、四月の半ば、穀雨の時期に雨が大変多かったため、例年以上に苗が良く育ってくれ、順調に田植えまで終えることが出来ました。昨年の生産量は三トンと豊作でしたが、多くの方がご購入くださり、無事完売となりました。農薬を使わず自然からの恵みだけで丁寧育てた真光寺のお米を今年もぜひご賞味ください。



白米：2kg/¥1,100・5kg/¥2,500・10kg/¥5,000
玄米：2kg/¥1,000・5kg/¥2,250・10kg/¥4,500
色々米：300g/¥600

ご注文は同封の注文書をFAXでお送りいただくか、お電話にてお申し込みください。

TEL：0438-75-7414
FAX：0438-75-7630

イベントだより



大人数で広い田植えもあっという間。



いい苗ができますように。



なかなか思い通りには咲いてくれません。



田植えの後は釜のお風呂で温まります。



気分は左官職人！



一番よく咲いていたのは水芭蕉でした。

お花見トレッキング(三月二十六日)

畔塗りと稲苗作り(四月九日・十日)

田植え(五月十四日・十五日)

今年も二日間、勢六〇名以上の方が参加され、大変賑やかな田植えとなりました。黙々と田植えする人、泥遊びに夢中な子、お釜のお風呂につかりっぱなしの子などそれぞれの形で満喫されました。

米作りの準備作業的なこのイベント。畦を整えるというの一見地味な作業に見えますが、この作業をしておかないと畦が決壊したりなど後々大変なことになります。ご褒美は掘りたて竹の子のお土産でした。

里山の桜も年々大きく成長し毎年見事に花を咲かせてくれますが、やはり自然のもの。なかなかこちらの期待どおりにはなりません。今年も残念ながら時期尚早で満開には遠く、少し物足りないお花見となりました。

自然学校イベントのご案内

皆様のご参加をお待ちしております！

- ・6月18日(土) 田んぼの草取りとホタル観賞
- ・7月3日(日) イトトンボの観察会
- ・7月30日～31日(土～日) 里山の昆虫観察会
- ・9月11日(日) 稲刈り

- ・10月2日(日) トンボの観察会
- ・10月8・9日(土・日) 収穫祭
- ・10月23日(日) 里山散策と秋の収穫体験
- ・12月17日(土) しめ縄とリースづくり

※各イベントの詳細は上総自然学校のHPをご覧ください。

上総自然学校フィールドの希少な生き物たち
第八回・キイトトンボ

詩人 大島 健夫

名は体を表す黄色いイトトンボ、キイトトンボは、房総半島の谷津田を代表するトンボのひとつです。雄は鮮やかなレモンイエロー、雌は若草色をしており、日光の下で草むらを舞っている、まるできらきら光るマツチ棒が飛んでいるように見えます。



鮮やかなレモンイエロー

植物の多い、浅い池や沼、あるいは昔ながらの湿地などの周辺に好んで生息しているこのトンボは、かつては県内全域できわめて普通に観察できた種であったようです。しかし、圃場整備による水田の構造変化、耕作放棄、湧水の消滅などにより、現在では生息に適した条件を備える環境そのものが少なくなっています。そのため近年、特に県北部では著しく減少しており、千葉県のレッドデータブックでは、2006年の改訂以降、「D（一般保護生物）」から「C（要保護生物）」へとランクが引き上げられました。小さくて力も弱いイトトンボの仲間には、ヤンマ類や赤トンボの仲間のようなより大型のトンボに比べ、飛翔能力が著しく劣っています。

エリアを注意深く保全し、水場と水場を植物でつなぐなど、できるだけ丁寧な対策を施さなければならぬのです。

その点、谷津田環境が良く、連続した水田があり、池も沼もある上総自然学校フィールドには、依然として数多くのキイトトンボが生息しています。このトンボが姿を現し始めると、いよいよ夏の訪れという感じになってきます。

キイトトンボの繁殖行動はなかなか面白いものです。まずその交尾ですが、植物体に静止した状態で行われるのです。

トンボは、雄のお尻にクワガタ状のハサミのような器官があり、交尾の際はそれで雌の頸部をつかまえるようになっています。そして、雄は胸の下あたりに精子をためる場所があり、雌はそこにお尻をつけて精子を受け取るのです。写真のように、交尾体はハート形をなすのに見事なものになります。通常、人間が近づくとすぐに逃げ出すキイトトンボも、交尾の時はじっとしたままです。繁殖というのは命がけのものなのです。炎天下、緑の草の上でじつと交尾しているキイトトンボのカップルを前にすると、強い意志のようなものすら感じます。



この形態のまま飛び回ること

交尾の後、雌は水面付近の植物組織、つまり、ヒルムシロのような水面に葉を浮かせている植物などに卵を産みつけるのですが、その姿もまた変わっています。なんと、雄が雌の首を、例のクワガタ状の「尾部付属器」ではさんだまま、雌の首の上で「気をつけ」のかっこうで直立するのです。

雄がこんなふうになっているのは、まず第一に、周囲を警戒するためです。それは捕食者であったり、雌を奪おうと近づいてくる他の雄だったりします。他の雄なら争いになるだけですみませんが、鳥などの捕食者がやって

きた場合、狙われるのは当然、雄の方です。時には、雄だけが食べられてしまい、雌が半分ほど残った雄の死骸を首の上に立てたまま産卵している、というシーンにさえ遭遇することがあります。つまり、雄がこのようにものすごく目立つ姿勢で立っている第二の理由は、わざと目



命をかけて命をつないでいく

立って、有事には自分が犠牲になることにより、雌が産卵をする上でのリスクを減らすためなのです。繁殖は命がけのものときつきも書きましたが、次の世代に子孫を残すことができるなら、それで一個体としての自らの役割は全うされたことになり、死んでも構わないというのでしょうか。このような昆虫にとつて、生殖という行動の重みは想像を絶するものがあります。

文字通り、両親の生命をかけて産み出された卵は、1〜3週間ほどで孵化します。房総半島のキイトトンボは年に一回の発生ですから、幼虫はそのまま越冬し、翌年の夏来て成虫となるのです。そのサイクルは、彼らが生息できる環境が、ここ川原井の谷津田に残されている限り、ずっと繰り返されてゆくことでしょう。

キイトトンボ Ceriagrion melanurum
トンボ目イトトンボ科
千葉県レッドリスト・C（要保護生物）

大島健夫

詩人。一九七四年千葉県生まれ。二〇一四年、二十四時間ワンマン朗読ライブ完遂。詩の朗読の日本選手権・ポエトリースラムジャパン二〇一六優勝。パリで開催されたポエトリースラムW杯で準決勝進出。一方でネイチャーガイドとしても活動。千葉県生物多様性センター勤務。環境省希少野生動物種保存推進員。近著「外来生物のきもち」（メイツ出版）好評発売中。

縁の会施食法要のご案内

縁の会お盆のご供養(施食法要)を行います。厳しい暑さの時期ではありますが、近在の寺院僧侶をお迎えし、先祖代々、故人、新盆精霊のご供養をいたします。また、亡くなられて初めてお盆にあたる精霊には、特別なご回向をいたしますので新盆家のご縁者の皆さまは、ご参加くださいますようご案内申し上げます。本年も感染予防対策として、各座とも薬師堂と食堂に会場を分け修行いたします。

◇7月7日(木)
11時 授戒式
月例供養
13時 施食法要

◇8月11日(木)
午前の部
10時半 受付
11時 施食法要

◇8月11日(木)
午後の部
13時 受付
13時半 施食法要

●お申し込み事項

①出席者のお名前、人数、お弁当の数(お一人1,000円)

大勢での御参列の場合には合同法要とは別に日時をお取り下さいますようお願い申し上げます。
ご自宅へもお伺いできますので下記新盆供養のご案内をご覧ください。

②出席の日時

③送迎の有無(お迎えの時間は裏表紙をご参照ください)

④花塔婆供養の有無(1本 2,000円)

花塔婆のお申込は事前に同封のFAX申込用紙またはお電話にてお申し込みください。お申し込みの際は、建てる方のお名前と、どなたの為のご供養かをお知らせください。施主名の連名はお受けできません。

※法要に欠席の方も花塔婆供養は受け付けいたします。

●ご供養のお布施について

新盆精霊供養の方、一般参加の方どちらもお布施は随意ですが、新盆精霊の供養の方は30,000円～50,000円程度、一般参加の方は3,000円～10,000円程度を目安にお包みください。

新盆供養のご案内

亡くなられて四十九日を過ぎ、初めてお盆を迎えられる方は新盆(初盆)にあたります。家族一同で御霊を迎えご供養し、お盆のひとつきを大切に過ごしましょう。

上記の施食法要はお寺での合同供養となりますが、ご希望に応じて個別でいつものご法事と同じ要領で新盆のご供養をいたします。また“故人の好きだった自宅で御霊をお迎えしたい”という方や“時節柄自宅から出たくない”という方はご自宅に僧侶が出向きご供養いたします。所要時間は40分程ですのでお気軽に申し付けください。

8月16日までがお盆です。ご都合の良いお日にちをご相談ください。(お盆前後はお受けできません)

ご供養のお布施については30,000円～50,000円程度(車代3,000円～10,000円程度)を目安にお包みください。

行事予定

真光寺と駅、バスターミナル間の送迎もありますのでご希望の方は裏表紙をご参照ください。
また、各行事は新型コロナウイルス感染状況によっては中止する場合がございます。

山門大施食 《檀信徒》

日時：8月9日（火）14時より
お盆恒例の先祖・新盆供養会を行います。

山門秋彼岸法要 《檀信徒》

日時：9月23日（金祝）14時より
秋の彼岸供養会を行います。

縁の会施食法要 《縁の会会員》

日時：8月11日（木祝）
午前の部 11時より / 午後の部 13時半より
お盆にあたり先祖、新盆、ご縁者、ペットなどご供養いたします。欠席の方もお塔婆のご供養が出来ます。詳しくは10ページをご覧ください。

縁の会秋彼岸法会 《縁の会会員》

日時：9月23日（金祝）11時より
縁の会合同での秋彼岸法要を行います。
昼食（お弁当）のご用意をいたしますので、参列申込みの際にお弁当の要・不要をお伝え下さい。
欠席の場合でも御回向のみ、お塔婆のみのご供養もお受けいたしますのでお申し込み下さい。
※要予約

戒名を考える会 《縁の会会員 特に未授戒の方》

日時：9月14日（水）午前11時より午後2時半頃
費用：3,000円（昼食付）
定員：10名

午前中は戒名と仏教知識を学び、昼食をはさみ午後は住職指導のもと、実際にご自身の戒名を考え後日の授戒式にて正式に授戒します。

※要予約
※持ち物：漢和辞典

七日法要 《縁の会会員》

日時：7月7日（木）11時より授戒式・月例供養、昼食（お弁当）午後には施食法要
8月11日（木）お盆の供養法要を行います。詳しくは右ページ→をご参照下さい。
9月7日（水）11時より授戒式・月例供養、昼食（精進料理）午後には坐禅・写経・写仏
10月7日（金）11時より授戒式・月例供養、昼食（精進料理）午後には坐禅・写経・写仏
11月3日（木）縁の会総会を行います、詳しくは9月中にお手紙でご案内いたします。
12月7日（水）11時より授戒式・月例供養、昼食（精進料理）午後には山内の大掃除を行います。

※要予約
※午前、午後のみのお出席もできます。

ご詠歌練習日 《どなたでも参加できます》

■6月よりご詠歌練習を再開いたします。
約2年半ぶりの再開にあたり、今後は副住職が講師としてご指導いたします。ご詠歌はお釈迦さまの教えを学び、お唱えする楽しさを基に正しい信仰を学びます。是非この機会にご入門ください。
参加費：無料

6月 14日・28日	7月 12日・26日
8月 2日	9月 13日・27日
10月 11日・25日	11月 8日・22日
12月 13日（忘年会）	

時間：15時～16時半

精進料理と聖典講読の会 《どなたでも参加できます》

日時：6月20日（月）7月25日（月）
9月29日（木）10月25日（火）
11月29日（火）

午前11時～午後2時30分
費用：3,000円 昼食付（精進料理）

住職による仏教解説の後、ご一緒に精進料理をいただき、午後は坐禅や写経をいたします。
※要予約

仏像彫刻体験教室 《どなたでも参加できます》

日時：毎月 第1・第3 水曜日
13時30分～16時30分
費用：4,000円 / 1回参加
お申し込みは仏師鈴木先生まで TEL. 0438-63-2848

坐禅会 《どなたでも参加できます》

日時：毎月 第2・第4 土曜日
15時00分～16時30分
費用：無料
初心者の方も気軽にご参加下さい。初めての方は初回のみ坐り方指導をいたします。14時半までにお越し下さい。



いろいろまい
真光寺の里山で育てている色々米が
袖ヶ浦市のふるさと納税返礼品になりました！

真光寺の里山で、農薬を一切使わずに育てているお米たち。うるち米やもち米、古代米を4種育てておりますが、古代米4種ともち米をブレンドした「色々米」がこの度袖ヶ浦市のふるさと納税の返礼品に認定されました。これまでもお寺や直売所で販売をしておりましたが、返礼品に認定されたことで真光寺のお米や里山活動についてより多くの方に知っていただける良い機会となりました。まだ食べたことのない方もぜひ一度真光寺の色々米をお試しください。



色々米はふるさとチョイスという、ふるさと納税サイトにて紹介されております。他にも各自治体の魅力的な品々が数多く掲載されているので試しに覗いてみてはいかがでしょうか。

<https://www.furusato-tax.jp>

ふるさとチョイス

検索

送迎のご案内【午前】

□電車の方

- ・上り電車の方（君津発千葉行き）
JR内房線「袖ヶ浦駅」10時05分着
- ・下り電車の方（快速君津行き）
JR内房線「袖ヶ浦駅」10時10分着

□バスの方

【土日祝】

- ・品川発9時00分→袖ヶ浦BT9時52分着
- ・横浜発9時00分→袖ヶ浦BT9時46分着
- ・川崎発9時15分→袖ヶ浦BT10時17分着
- ・新宿発8時50分→袖ヶ浦BT9時48分着
- ・東京発9時15分→袖ヶ浦BT10時05分着

【平日】

- ・品川発9時00分→袖ヶ浦BT9時52分着
- ・横浜発9時00分→袖ヶ浦BT9時46分着
- ・川崎発8時40分→袖ヶ浦BT9時30分着
- ・新宿発8時50分→袖ヶ浦BT9時48分着
- ・東京発9時15分→袖ヶ浦BT10時05分着

送迎のご案内【午後】

□電車の方

- ・上り電車の方（快速逗子行き）
JR内房線「袖ヶ浦駅」13時05分着
- ・下り電車の方（千葉駅発木更津行き）
JR内房線「袖ヶ浦駅」12時50分着

□バスの方

【土日祝】

- ・品川発12時00分→袖ヶ浦BT12時52分着
- ・横浜発12時00分→袖ヶ浦BT12時46分着
- ・川崎発11時30分→袖ヶ浦BT12時32分着
- ・新宿発11時50分→袖ヶ浦BT12時55分着
- ・東京発11時50分→袖ヶ浦BT12時40分着

【平日】

- ・品川発11時50分→袖ヶ浦BT12時42分着
- ・横浜発12時00分→袖ヶ浦BT12時46分着
- ・川崎発11時15分→袖ヶ浦BT12時17分着
- ・新宿発11時50分→袖ヶ浦BT12時55分着
- ・東京発11時50分→袖ヶ浦BT12時40分着

各種お申込み連絡先

真光寺 〒299-0201 千葉県袖ヶ浦市川原井634

TEL 0438-75-7414 (代表) TEL 0438-75-7365 (縁の会事務局) FAX 0438-75-7630

e-mail ennokai@shinko-ji.jp (縁の会)

satoyama@shinko-ji.jp (上総自然学校)